

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

【氏名】二瓶マリ子

【所属】(助成決定時)東京大学大学院

【研究題目】辺境地の「野蛮な先住民」——メキシコ国家形成とテハス(1810~1836)

【研究の目的】

本研究の目的は、19世紀初期、コマンチェ、リパン、アパッチェといった辺境地テハスの「野蛮な先住民」(Indios barbaros)が、メキシコ国家形成に果たした役割を考察することにある。1821年以降、新生国家メキシコでは、国の在り方をめぐり、連邦派と中央集権派との間で激しい対立が起こる。この対立が進むなか、両派の政治家が直面した一つの課題が、米国と国境を接する辺境地テハスの防衛・入植・開発であった。テハスには長年、野蛮な先住民が住んでいた。独立を達成したばかりのメキシコ政府にとって、これらの先住民を国家に統合し、テハスの防衛・入植・開発を進めるのは、とても困難であった。メキシコの中央政府が講じた野蛮な先住民に対する政策は、テハス入植政策とともに、テハスがメキシコから独立した(1836年)直接の要因であったと考えられる。今回の調査では、前者、つまりテハスの野蛮な先住民の19世紀初期の生活様式と、彼らに対する中央政府の政策を明らかにしたい。

【研究の内容・方法】

本研究は、テキサス大学が所蔵するBexar Archivesに基づき、18世紀末~19世紀初期テキサスにおける「野蛮な先住民」の活動を浮き彫りにする。詳しい内容は以下である。

スペイン人がテキサスに入植を始めた18世紀初期、一番スペイン人入植者の脅威となったのは、アパッチェ族であった。スペイン人は、入植地の近くにミッションを建て、アパッチェ族をはじめとする複数の「野蛮な先住民」を改宗させて定住させることで、彼らを文明化させようとした。しかし当時、テキサスには野生の牛や馬がいたるところにいたため、ほとんどの「野蛮な先住民」は、これらの牛を食糧にして暮していればよかった。トウモロコシやその他の生活必需品、戦闘に使う銃などは、他の先住民族やルイジアナのフランス人商人などとの交易で簡単に手に入れることができた。彼らは、スペイン人入植者が用意したミッションに定住して、それまでのライフスタイルを変えて野菜を栽培し、スペイン語を学ばなくても、十分生活していくことができたのである。したがって、多くの「野蛮な先住民」は、彼らのライフスタイルを変えようとする入植者たちに、激しく抵抗した。

18世紀後半になると、アパッチェ族と敵対するコマンチェ族がテキサスを脅かす存在となった。そして、18世紀末期までには、テキサスにおいて一番の勢力を誇る「野蛮な先住民」になった。彼らは、部族の人口自体多かったが、何よりも馬術に長けており、スペイン人やアングロ系米国人では手に負えないほどの戦闘力を備えていた。彼らの行動範囲はニューメキシコとテキサスに2分された。ニューメキシコは当時、チワワとの交易が盛んで経済的に豊かな地域であったため、先住民族とニューメキシコ人との交易も栄えていた。当然ながら、コマンチェ族もこの交易の恩恵にあずかっていたため、彼らはニューメキシコの入植地を奇襲することはなかった。一方テキサスは、入植地もまばらでとても貧しい辺境地であった。また、コマンチェ族は、テキサス総督府にプレゼントを要求しても、満足のいく物品をもらえない場合が多かった。そのため彼らは、頻繁にテキサス人が所有する牧場

を襲撃し、家畜などを盗んだ。盗んだ家畜は、他の先住民やフランス人商人などと物々交換し、コマンチェ族は銃を手に入れていた。テキサス総督府は、有効な先住民政策を行うことができず、コマンチェ族を味方につけることができなかった。結果、テキサスは次第に境地に陥っていった。

【結論・考察】

18 世紀後半以降、テキサスにおけるコマンチェ族の勢力は勢いを増し、「コマンチェ帝国」が形成されていった。コマンチェ族は、スペイン人入植者よりもテキサスの状況を把握し、生活していた。テキサスを統轄していたのは、スペイン人ではなくコマンチェ族だったのである。特にスペインの植民地支配が弱体化した 19 世紀初期、コマンチェ族をはじめとするテキサスの「野蛮なインディオ」は、激しくスペイン人入植地を奇襲した。そして、メキシコ独立運動の後期である 1815 年以降になると、あまりにも先住民からの奇襲が激しいため、テキサスの住民の間では、副王領内陸部の他の土地に移住する者が増加した。資金も武力もないテキサス総督府は、住民の流出をくいとめることができず、メキシコがスペインからの独立を達成する 1821 年までに、テキサスは壊滅状態に陥っていた。ルイジアナまで迫っている米国の脅威からメキシコを守るためには、なんとしてでもテキサスへの入植者を増やさなければならなかった。しかし、メキシコ内陸部の住民は「野蛮なインディオ」からの襲撃を恐れ、テキサスには入植してくれない。唯一テキサス総督府が入植者として期待できるのは、テキサス開拓に興味を持つアングロ系米国人たちであった。そのため、1821 年以降、テキサスは公式にアングロ系米国人入植者政策を開始したのであった。